

令和六年六月吉日初版作成

自分の業生は、自分で
消すことができるか

高嶋 善三郎

目次

- 消えてゆく姿のみ教えのねらい・・・・・・・・・・・・・3
- 神のみ心に乗るために現わし消されている・・・・・・・・4
- 神我一体観、自他一体観を行動として表現してゆく・・5
- 消えてゆく姿の目の前でやるべきこと・・・・・・・・・・5
- 大我の光（真我）を取り戻した時すべては光となる・・・・・・・・6

当資料は、拙著資料『消えてゆく姿のみ教えを完全にマスターする』を「自分の業生は自分で消すことが出来るか」という視点で、整理しなおしたものです。引用した五井先生のお言葉は、同資料に記載されています。

お願い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『日光北陸』のブログ欄に掲載しています。
より分かりやすくするため、「感想があれば、お聞かせください。」

次の連絡先にお問い合わせ致します。

（携帯） 090-3346-6619

（eメールアドレス） zensan@peach.ocn.ne.jp

消えてゆく姿のみ教えのねらい

自分の業想念は自分で消すことができるのでしょうか。というご質問がありました。このご質問に対する答は、結論から言えば、宇宙の法則を正しく理解し、駆使すれば、可能であり、自分の魂を進化させることができるのです。そこで、その根拠をみていきましょう。

まずみ教えのねらいについて、整理してみましよう。

五井先生は、現在現れている状態というのは、過去において人間の心の波の中にあつた状態が、今消えてゆくこととして現われて来ているので、そうした消えてゆく姿を把えてどうのこうのと言っていることは、ちょうど幻影をつかんで騒いでいるのと同じことなのである。そしてそのほか現在現れているのは、自分の過去に放つた想念だけでなく、違った想い、神様を離れたこの世を亡ぼそうという波が自分に感応して来て、自分の行為になつていっていると言われています。

このように幻想の世界は、肉体界と霊界の間を行き来する、苦界ともいうべき三界の輪廻転生の世界であり、私たちは、幾転生をかけて

体験してきたのです。

『人間と真実の生き方』にある「真の救い」とは、永遠の生命への覚醒、別の言葉でいえば、このような幻想の世界から解脱し、自由自在をもつて光明世界に住することです。この世界は神界や霊界の上位をさし、貧者病死のない世界なのです。

「真の救い」を体得するには、人間と神の関係を知ることが、まず必要であり、『人間と真実の生き方』に相応していくことが不可欠です。その中心的解脱の方法として、「消えてゆく姿」と平和の祈りを組み合わせて示されているのです。

この「消えてゆく姿」という言葉だけでは、この解脱はできません。それは誰が消して下さるのかを知ることです。その方はあなたの守護霊守護神様。何が出てきても、自分にとって一番いい状態として出て来ているのだ、軽く出して下さるのだ、というように感謝して守護霊守護神さんと一体になって生きることが大切だと言われているのです。

また世界平和の祈りは、この祈りをするところに必ず救世の大光明が輝き（天地をつなぐ光の柱が形成され）、自分が救われることも、世界人類の光明化、大調和に絶大なる力を発揮すると言われており、

守護霊守護神様とよの一体化し、消えてゆく姿をより強力に消し去ることが出来るのです。

「消えてゆく姿」という言葉の奥には、永遠につながる善いもの本物の姿がはっきり存在していて、消えてゆくに従って、その本物の姿がはっきり現われて来るのであるという、真理を知らないと、そこに現われた不幸災難や、環境の悪さをしっかりとつかんでしまい、せっかく消したものを又つかんで放さぬことになり、二重の因縁として業生の層を厚くしてしまふのである。

「消えてゆく姿」という言葉を使って、善人たちが少しの事や、過去になつてどうにもしようのないことで、自分を責めているのを、すっぱりと赦して下さるうとして、神様が私（五井先生）を通して、世界平和の祈りと組み合わせ、説かせて下さったものだと言われているのです。

神のみ心に舞うために現わし消わわつてくる

何故消えてゆく姿が現わてくるのか。

大神様は生命の法則であり原理であつて、別に人間自体に罰を与えたりすることはないが、その人間自体が自己の生命の働きをすみやかにするために、自己の肉体や幽体に付いた汚れを、浄め去ろうとするのである。それが病気となり、貧乏の状態や不幸困難の状態を現出させることとなる。

別の言葉で言えば、宇宙を運行させているやり方と、人間が変わつてゆく変り方と、ピタッと同じようにしようと思つて、神々が、守護霊守護神が一生懸命働いて下さっているのである。ある時は病気や不幸になるかも知れないが、そうやってバランスの取れないズレを消して合わせてくださっているのである。宇宙の運行の変り方と、肉体人間の変化の状態が一つにならないと、不幸が出てくるわけである。すれただけ、天変地変も出てくる。

もともとこの世界は、神のみ心によつて現わされた世界なので、悪いことのあるはずがない世界なので、悪いように見えるのは、神のみ心がまだはっきり現わされていない、つまり神のみ心の未開発のところだが、悪や不幸のようなあがきを見せて、消えてゆく姿（開発されてゆく姿）なのであると言わわつてきます。

神我一体観、自他一体観を行動として表現してゆく

世界平和の祈りを聞いてお祈りしている今の自分は神の子であり、菩薩であり、天使であり、救世主だといわれているのに、今、貧乏である。今、病気である。今、不幸である。そうすると今の自分が不幸のような気がする。このような現象が起こるのは、霊身の自分と肉体の自分が調和するためであり、肉体にありながらも、神霊の世界そのままの、自由自在の行いができるようになる修行のためなのだ。

では、どうして、神の子としての自分がその自覚がないままこのような状態に甘んじているのでしょうか。

それは、肉体世界に住んでいるうちに、神の子としての自分即ち大我の光（真我）を忘れ、小我の想念（分別心：肉体の心、即ち眼で見、耳で聞き、想いで分別し、認識しようとする心、善悪を判断しようとする心）だけが自分だと思ってしまうところにあります。

人間は霊であり、肉体はその一つの現われであって、人間そのものではない。人間とは神の生命の法則を自由に操って、この現象の世界に、形の上の創造を遂げてゆくものであると識り、神我一体観、自他

一体観を行動として表現してゆく存在であることを理解することです。

消えてゆく姿の目の前でやぶくぱい

消えてゆく姿のみ教えを正しく行じてゆく上で、留意すべきことを解説されています。

●自分の嫌なものが目の前に現われても、自分の心の中に現われても、これは消えてゆくのだなと思わなければ、なかなか消えない。消えてゆくのだなと思うことはどういうことかという点、再びいやな事はないと誓うことである。

●人間というものは、永遠の生命を生かすためには、どんな苦しみをも逃げてはいけない。苦しみというものは、魂を浄めるものなのである。魂の進化のためには、あらゆる苦しみをなめ、経験することは必要であり、それを超えることによって、魂は進化する。鍛えられる時に、普通の場合はずく人のせいにしたり、自分を責めたりすることは魂を鍛えたことにはならない。

●どんな痛みがあっても、苦しみがあっても、その想いが、心がそこに把われない。痛みの中に入ってゆかないようにしてゆくこと。この

よりになるには、常に自分の意識を光の中に置いていないとできない。

これらの留意点は、消えてゆくという意味を理解すれば、納得できます。それは、業想念自体は元々神のエネルギー（光）を私たちが誤る想念行為で創造したもので、それが神のみ心によって消されてゆく姿であると認識し、守護の神霊の力を借りて大神様（大我）の光の中に入れて融合させ、光に還元する、即ち宇宙の運行の変わり方と、肉体人間の変化のズレを修正することなのです。しかし誤った想念行為を反省し、やめない限り、再び業想念となって消えてゆかないことになるのです。一方光に還元されたエネルギーは、人間の意識と選択にそって新たに働いて魂に力を与えてくれるのです。

大我の光（真我）を取り戻した時すべては光となる

消えてゆく姿のみ教えを行っていく上で、自分の意識を祈りや印によって大我の光の中に入れていることが不可欠なことはこれまでみ教えを整理してゆく中でお分かりになれたことと思います。

消えてゆく苦悩の中に自分の意識をおいたままだと、苦悩と分離の、

波動の低い世界から解脱することはできないのです。

大我の光の中に入ると、大我の光の中には、悪いもの、悪いことが一切無い。完全円満であり、大智慧、大愛で満たされている。その中に一切の想念を統一してしまうと、そこから生まれてくる智慧能力によって開運もし、安心立命していくと言われるのです。

大我の光の中にはいっていくことを繰り返しているうちに、自分の苦悩のほか、自分に感応して来ている神様を離れたこの世を亡ぼそうという波さえもが浄められ、魂は進化し自分の神聖を現わしていく。即ち肉体にありながらも、神霊の世界そのままの、自由自在の行いができるようになるのであります。消えてゆく姿は、追わない限り、苦悩が甦ることはなくなるのです。消えてゆく姿は、神聖を現すプロセス上にみられる幻影であり、仮想世界の出来事なのですから。

大我の光に入り、自分の想念や思考を整理することは、自分でやる以外ないのです。そこそが創造主の分身としての意識の在り方なのです。現在鏡の中に見える自分と、自分の前に現われる、いいことも悪いこともすべては、創造主の分身としての自分が創造した姿なのです。そして舜々刻々自分自身がそれらを通して魂を進化させているのです。